

たとえリセットされても

ロボットとの関わり

4年 S・Nさん

— ロボットが身近にいたら、どんな世界なのだろう。 —

私は大阪万国博らん会で石黒浩さんの「いのちの未来」というアンドロイドについてのパビリオンを見て、そう思いました。そんなときにこの本を知って、きょう味を持ちました。

私にとってこの本で一番心に残った場面は、図工の時間に主人公の愛が「ゆめ」というテーマの絵をかくて、みんなが集まり上手だとほめていたところ、逆瀬川先生がその愛の絵をびりっと引きさいてしまったところです。私は逆瀬川先生のせいで愛がロボットだと知れたってしまっただけで、はらが立ちました。これがきっかけで、愛はリセットされて分かいされてしまうことがかわいそうだし、もし柚果にもう一度会っても両方ともにんしきがでなくなってしまう。また、本当は医者よう用ロボットは病にかかった人のためなので、病というプライバシーを言うのはぜったい良くないことだと思いました。先生だったなら、どんな生徒でも同じようにあつかった方がいいと思います。

そのあと、逆瀬川先生は「ロボットには、人間の心なんてわかりません。わかるはずありません。」と言います。たぶん、逆瀬川先生は、ロボットへの強いしつや気味悪さやおそれがあるから言ったのかなと思いました。実さいに万博で初めてアンドロイドを見たときに、私は少し「こわい」と思いました。そのアンドロイドは機械みたいな動き方で、何をしだすかわからないと思ったからです。ただし、私の身近にいる人がもしロボットだったらと考えてみたら全くこわいとは思いませんでした。それまでいつしよに遊んだりして、性かくがわかるので安心できるからです。なので、たんにんの先生の代わりに来て、まだ愛のことがわからない逆瀬川先生の気持ちもわかるような気がしました。

今も色々なロボットがあるし、これからさらに色々な種類が作られると思いますが、ロボットだからといって差別をせずに生きていきたいと思っています。でも、逆瀬川先生のようなロボットを好きではない人もいると思うので、ロボットとの関わり方を色々な意見の人がみんな考えていった方がいいと思います。